2026年 JAごしょつがる 水稲栽培ごよみ(移植栽培)

JA 米の要件：①種子更新 100%　②水稲栽培日誌の記帳　③農産物検査の受検

土壌診断を実施し、不足しがちなケイ酸や微量要素を補い、適正施肥に努めましょう！

月	旬	作業項目		
3月	上	播種準備	①床土準備 ②塩水選 ③種子消毒 ④浸種 ⑤催芽 ⑥播種	・塩水選 種籾 / 比重 / 食塩量 ※水 10L あたり うるち / 1.13 / 2.0～2.1kg もち / 1.08 / 1.2kg ・葉いもち・初期病害虫防除(箱処理剤の施用)
	中			
	下			
4月	上	育苗期	本田施肥	本田期間中の用水が無駄なく使われるよう、畦塗りや畦畔の補修等の漏水防止対策を確実に行う。
	中		耕起	
	下			
5月	上		代かき	◎**水管理** ○活着期(5 月) 水田水温 16℃以上を保つ。 目安水深：**2cm**、4～5cm(低温時)
	中	活着期	田植え	
	下		除草剤散布	
6月	上	分げつ期	**追肥や除草剤散布等、屋外で作業する際は、熱中症対策を実施した上で、適度な休憩をとりましょう**	○分げつ期(6 月) 日較差 15℃、水田水温 20℃以上保つ 目安水深：**3cm**、5～6cm(低温時)
	中			
	下	穂首分化期		○穂首分化期(6 月下旬～7 月上旬) 目安水深：**3cm**
7月	上	幼穂形成期	・中干し ・カメムシ対策として、出穂 1 週間前までに畦畔の草刈り、除草剤散布(ザクサ、ダイロンゾル)	○幼穂形成期(7 月上～中旬) 到達後、**気温の高低関係なく 10 日間水深 10cm を維持する**
	中	穂ばらみ期	・稲こうじ病対策(出穂 10～20 日前)	○穂ばらみ期(7 月中旬) **高温**が予想される場合は、用水に応じ**飽水管理(※)**を行い、低温が予想される場合は、水深 10cm を維持する ※**飽水管理** **水深 3cm まで入水⇒自然落水⇒入水を繰り返す**
	下	出穂期	いもち病対策(前年紋枯病発生ほ場については、紋枯病対策も併せて実施する)	
8月	上		カメムシ対策(1 回目)	○出穂期・開花期(7 月下旬～8 月上旬) **出穂後 10 日間は水深 5cm を維持する**
	中	登熟期	カメムシ対策(2 回目)	○登熟期(8 月中～下旬) 目安水深 **3cm**、**高温**が予想される場合は、用水に応じ**飽水管理**を行う。
	下		落水	
9月	上	収穫	**目安刈り取り時期** (出穂後積算気温) まっしぐら：960℃ はれわたり：970℃	○目安落水時期 湿田：出穂後 20～25 日 乾田：出穂後 30～35 日
	中			
	下			
10月	上			
	中	秋耕	腐熟促進剤散布(※) 稲わらすきこみ	※推奨：ワラ分解キング、石灰窒素 目安作業深：5～10cm
	下			

栽培の要点

○育苗

・浸種：水温 10℃以上で 10 日間
・播種量：箱あたり　乾籾 100g(催芽籾約 125g)
・催芽：30～32℃で 16～20 時間加温
・箱処理剤：

資材名(対象病害虫)	使用量
ブーンレパード(いもち・紋枯・殺虫)	箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)
ルーチンコア(いもち・殺虫)	箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)

○施肥

分類	資材名/規格	目安使用量/10a
ケイ酸資材(～田植え前)	カキテツ/20kg	2～3 袋。ガスわき軽減
一発肥料	楽勝一発/10kg	3 袋・窒素量 9kg
基肥	パワフル基肥/20kg	2～2.5 袋・窒素量 8～10kg
追肥	セラコート R スカイ/15kg (窒素 6.6kg/袋)	航空機散布向け 1 袋で 30～60a 分
ケイ酸資材	KSK28/1.4・4.2・14kg	1.4kg で 10a 分 中干し後の流し込み推奨

※一発肥料・基肥・追肥の目安使用量は、「まっしぐら・はれわたり」基準

○除草剤

分類	資材名・剤型	登録内容
初期剤	クラール　粒	田植え同時可。藻類対策
初中期一発剤	シンズイ Z　豆粒	移植後 3 日～ノビエ 4 葉期
	センメツ Z　FG	移植後 3 日～ノビエ 4 葉期
中後期剤	レブラス　エアー	移植後 14 日～ノビエ 4 葉期
	ロイヤント　乳剤	ノビエ 5 葉期。収穫 45 日前
畦畔雑草対策	ザクサ液剤	推奨倍率：ダイロンゾル 400 倍
	ダイロンゾル	ザクサ 100 倍。混用可

※カメムシ対策も兼ねて、本田内の雑草対策を徹底する

○本田防除剤(液剤　使用量：0.8L/10a)

対象病害虫	資材名・剤型	希釈倍数
いもち病	ビームゾル液剤	6～8 倍
いもち病・稲こうじ病	トライフロアブル	8 倍
紋枯病	モンカットフロアブル	8 倍
いもち病・カメムシ	ダブルカット K	8 倍
カメムシ	スタークル液 10	8～16 倍
	エクシードフロアブル	16 倍

○乾燥・調製

・玄　米　水　分：15%
・米選機の網目：1.9mm
・整　粒　歩　合：80%以上

★わら焼き防止の徹底

・わら焼きの煙は、人の健康を害し、交通の妨げ、誘致企業の操業や観光産業等の社会活動への障害となるので稲わらは絶対に焼却しない。
・稲わらは、堆肥や家畜の飼料等へ有効活用するほか、条件の良いほ場では秋のすき込みを積極的に行う。

○腐熟促進剤

資材名/規格	目安使用量/10a
ワラ分解キング/10kg	1 袋
石灰窒素/20kg	1 袋 ※翌年作付け時、10a あたり窒素 1kg 減肥推奨

2026年 JAごしょつがる 水稲栽培ごよみ(乾田直播)

JA 米の要件：①種子更新 100%　②水稲栽培日誌の記帳　③農産物検査の受検

土壌診断を実施し、不足しがちなケイ酸や微量要素を補給し、適正施肥に努めましょう！

必須作業　　必要に応じて

月	旬	作業内容 生育過程
前年秋		
3月	中	
	下	
4月	上	圃場整備～播種準備
	中	
	下	播種作業 種子
5月	上	
	中	出芽
	下	1 葉期
6月	上	2 葉期
	中	活着期
	下	分げつ期
7月	上	
	中	穂首分化期 幼穂形成期
	下	穂ばらみ期
8月	上	出穂期
	中	登熟期
	下	
9月	上	
	中	収穫
	下	
10月	上	
	中	秋耕
	下	

播種方法

V 溝	スリップローラーシーダー

代かき
※春作業時、雪解け水を使用する

種子準備(浸種、コーティング等)
※種子伝染性の病害防除のため、必ず種子消毒を行う。目安浸種期間は積算水温 100℃

施肥(一発肥料、等)

耕起・整地

排水対策(明渠、溝堀機等)

播種　※目安播種量(乾籾換算)：5～7kg/10a

〇同時可能作業
V 溝：施肥(全量緩効性窒素)
スリップローラーシーダー：施肥、耕起、鎮圧

鎮圧(ケンブリッジローラー)　※覆土・鎮圧が不十分な場合

除草剤散布(雑草多発ほ場。出芽前：非選択性除草剤、土壌処理剤)

除草剤散布(播種後～出芽後：選択性除草剤)

入水

除草剤散布(入水後：初中期一発剤等)

いもち病対策

カメムシ対策①

カメムシ対策②

★わら焼き防止の徹底

・わら焼きの煙は、人の健康を害し、交通の妨げ、誘致企業の操業や観光産業等の社会活動への障害となるので稲わらは絶対に焼却しない。

・稲わらは、堆肥や家畜の飼料等へ有効活用するほか、腐熟促進資材を散布後、秋のすき込みを積極的に行う。

栽培の要点

〇コーティング剤(忌避剤)/10a あたり目安使用量
キヒゲン R-2 フロアブル/140ml
(乾燥種子 kg あたり原液 20ml　播種量 7kg/10a の場合)

〇施肥

・目安窒素量：8～10kg/10a

・播種後から出芽期までの期間において、速効性窒素肥料や初期溶出型被覆尿素が脱窒流亡しやすくなるため、窒素が全量緩効性窒素肥料を使用する

分類	資材名/規格	目安使用量/10a
ケイ酸資材(前年秋～)	カキテツ/20kg	2～3 袋。ガスわき軽減
一発肥料	直播エース/15kg	2～2.5 袋
	V 溝 41/20kg	1.5～2 袋。全量緩効性窒素
ケイ酸資材(中干し後～)	KSK28/1.4･4.2･14kg	1.4kg で 10a 分 中干し後の流し込み推奨

★排水対策は可能な限り実施する

※V 溝栽培時

・播種同時で施肥する場合、種子と土の接地面積確保のため、全量緩効性窒素のみの商品を使用する。

・覆土が不十分な場合、出芽の不揃いや、薬剤が種子に付着し発芽不良の要因となるため、覆土・鎮圧をしっかり行う

〇除草剤

分類	資材名･剤型	特徴
非選択性(出芽前)	ラウンドアップマックスロード	両剤 50 倍希釈で混用可。 希釈水量 50L 以下の場合、ﾏｰｼｪｯﾄ乳剤⇒ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟの順で混用する ※ﾏｰｼｪｯﾄ乳剤について、降雨後等で土壌が湿潤な状態下での散布は避ける
土壌処理剤(出芽前)	マーシェット乳剤	
選択性(播種･出芽後)	ノミニー液剤	播種後 10 日～ﾉﾋﾞｴ 5 葉期 収穫 60 日前
	トドメ MF 乳剤	播種後 10 日～ﾉﾋﾞｴ 6 葉期 収穫 50 日前
	クリンチャーバス ME 液剤	播種後 10 日～ﾉﾋﾞｴ 5 葉期 収穫 50 日前
初中期一発剤	センメツ Z　FG	稲 1 葉期～ﾉﾋﾞｴ 3.5 葉期
選択性(残草時)	ロイヤント乳剤	稲 3 葉期～ﾉﾋﾞｴ 5 葉期 収穫 45 日前
	ノブレクト乳剤	
	クリンチャーEW	播種後 10 日～ﾉﾋﾞｴ 5 葉期 (無人航空機散布：ﾉﾋﾞｴ 4.5 葉期) 収穫 30 日前

※カメムシ対策も兼ねて、本田内の雑草対策を徹底する

〇本田防除剤(液剤　使用量：0.8L/10a)

対象病害虫	資材名･剤型	希釈倍数
いもち病	ビームゾル液剤	6～8 倍
いもち病･稲こうじ病	トライフロアブル	8 倍
紋枯病	モンカットフロアブル	8 倍
いもち病･カメムシ	ダブルカット K	8 倍
カメムシ	スタークル液 10	8～16 倍
	エクシードフロアブル	16 倍